

習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期：H27～R1）の評価について

習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期：H27～R1）については、別紙「習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標（KPI）実績表（基本目標）」及び「習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標（KPI）実績表（基本目標以外）」により評価しました。令和2年8月20日の習志野市長期計画審議会においては、その内容を報告し、委員の方々から御意見をいただきました。この度の評価の概要は次のとおりです。

基本目標の評価について

総合戦略の基本目標における指標は、4つの基本目標ごとに3つ、合計12の重要業績評価指標（KPI）を設定しています。目標値を達成したものを「A」、目標未達成であるが現状維持もしくは進捗したものを「B」、実績値が基準値未満のものを「C」と区分しています。なお、「―」については、5年間に於いて数値を算出することができなかった指標です。

5年間での評価は、「A」が3つ、「B」が1つ、「C」が6つ、「―」が2つとなっています。

基本目標以外の評価について

総合戦略の基本目標以外における指標は、具体的な施策ごとに151の重要業績評価指標（KPI）を設定しています。評価の表記は基本目標と同様です。

5年間での評価は、「A」が75指標、「B」が37指標、「C」が34指標、「―」が5指標となっています。

実績値が基準値未満のもの「C」について

○基本目標1の2「子育て支援施策の満足度」（こども政策課）

○基本目標1の3「学校教育の施策の満足度」（教育総務課）

いずれの指標も、市民意識調査の設問への回答率が高くなることを目標としているものですが、前回、平成27年度調査の結果を下回り、本指標は未達成となっています。市民意識調査評価の低さの要因については、各々の施策に対する設問において、特に取り組むべきだと思ふと回答のあった施策から探ることができるかと考えます。

まず、子育てについては「子育てと就労の両立支援の充実」が3年前の調査より若干下がったものの、34.8%と最も多くなっており、次いで、「乳幼児の保育教育施設の整備」が24.7%と、前回より2.5ポイント増加しています。前回より増加している「放課後児童会（学童保育）の充実」19.2%も含め、保育需要にまだまだ対応しきれていない面が、影響しているかと捉えています。この点については、後期基本計画において、待機児童対策に引き続き、注力する等、重点事項に設定してお

り、施策を推進することにより、満足度の向上を目指します。

教育については、他の項目が軒並み前回調査より下がる中、「学校施設の整備」が28.3%と、3年前に比べて11.4ポイント増加しており、施設の老朽化やICT化への対応が求められている中で、期待に応えられていない面があると捉えています。こちらについても後期基本計画において、重点事項として、特に教育環境の充実に力を入れ、1人1台のタブレット端末の整備等対応を図っているところです。

○基本目標2の1「20歳代転出者数の縮減」(総合政策課)

この指標は数値が減っていれば、進捗していると捉えるものですが、令和元年度末の実績は3,390人、計画期間全体の平均値では3,034人となっており、目標値2,603人を上回っています。全ての年度において、目標を達成できておらず、若者の定着を促進させるための施策の取り組みが不十分であったと考えられるため、後期基本計画では、大学生だけでなく高校生まで対象を拡大する中で、よりこの部分に着目し、若者のニーズ、志向を分析し、より効率的な取り組みを展開することが必要であると捉えています。

○基本目標2の2「子育て世代転入者数の増」(総合政策課)

この指標は数値が増えていけば、進捗していると捉えるものですが、令和元年度末の実績は3,240人となっていて、目標値3,453人を下回っています。この指標については、平成27、28年度末の実績値は目標値を達成していて、5カ年の平均値を算出すると3,411人と目標値を若干下回る値となっており、未達成ではありますが一定程度進捗している指標とも捉えられます。なお、この指標については、直近の開発による人口増の影響が収束したことが一因であるものと捉えていて、後期基本計画においては、将来を見据えた都市空間の整備を掲げるとともに、今後も魅力あるくらしのできるまちづくりに向けてハード・ソフトの両面から取り組みを進めていく必要があるものと認識しています。

○基本目標4の1「市民満足度「住みよい」と感じる人の割合」(総合政策課)

この指標は率が上がっていれば、進捗していると捉えるものですが、実績は83.1%となっており、基準値85.9%を下回っています。市民の大多数の方に継続して8割以上の高い評価をいただいているものではありませんが、目標を達成できなかったことについては、各分野においてより市民ニーズに沿った施策を講じていく必要があると捉えています。

○基本目標4の3「自主防災組織の組織率」(危機管理課)

この指標は率が上がっていれば、進捗していると捉えるものですが、令和元年度末の実績は62.3%となっており、基準値62.47%を下回っています。組織された数は着実に増加しているものの、世帯数も大幅に増加しているため、率が下がっています。率としては目標を達成することができませんでしたが、組織数は増加傾向であるため、引き続き、出前講座等により地域防災力向上の重要性を周知していく施策が有効であると捉えています。

総括

基本目標1「安心して産み育てること、未来をひらく教育を受けることができるまちづくり」については、年少人口の減少幅の縮減は達成したものの、子育て支援施策及び学校教育の施策の満足度は未達成となったことから、引き続き、目指すべき成果に掲げ、待機児童対策や学校環境の整備等、取り組みを強化していきます。

基本目標2「魅力あるくらしのできる習志野へ“新しいひとの流れ”をつくるまちづくり」については、東京都からの転入者数の増加は達成したものの、20歳代の転出者数の縮減は未達成、子育て世代の転入者数増もあと一步という結果となったことから、後期基本計画では特に「“新しいひとの流れ”の強化」を重点事項として掲げ、取り組んでいきます。

基本目標3「しごとをつくり、“働きたい”をかなえるまちづくり」については、評価を判断すべき数値の国の公表が遅れており、現時点での評価ができませんが、KPIについては、唯一約3割の達成にとどまっていることから、人材育成・雇用の効果的な取り組みについて検討していきます。

基本目標4「未来に対応する地域をつくり、支え合い・つながりで安心なくらしを守るまちづくり」については、健康寿命の延伸は達成したものの、住みよいと感じる市民の割合、自主防災組織の組織率については、目標を達成することができませんでした。人口が増加する中でも、それを見越した取り組みが求められていることから、後期基本計画を進める中において、市民ニーズを分析する中で、常に見直しを図りながら、効果的な事業展開を図っていきます。

長期計画審議会委員からの主な意見等

令和2年8月20日に開催した習志野市長期計画審議会においては、各委員から下記の意見をいただきました。

○全般に対する意見

- ・アンケートや調査に対する満足度という指標については、アンケートの質問等の聞き方によって答えが変わってくると思うので、質問の聞き方について検討が必要ではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々なイベントが中止・延期になっていて、どの目標を達成するにも人集めができないなどの制約がでてきていると思うが、アプローチの変更・対策も必要かと思う。

○基本目標1の子育てに関する相談窓口・情報提供の充実について

- ・予防接種のアプリやきらっこナビなどとてもよい情報を提供している。ただ一方で、スマートフォンやパソコン等を持っていない・使えない環境の家庭もあるため、情報に関して貧困による格差が生じていると思う。未就学児の家庭環境等の把握も結構大事なことなので、その辺も踏まえた施策を考えてほしい。

○基本目標2のKPI「シティセールスの推進」

- ・アウトプットしたことに関する成果だが、実際アウトプットした後に市の認知度などが上がったかなどのアウトカムが視点が欠落しているように感じる。双方向で評価できる体制を構築してほしい。幅広い世代への情報発信ということで、YouTubeに加えて、Instagramなども活用することによって、若い世代の認知度を上げていくことができると思う。

○基本目標2の若者の定着・定住促進に関する「地域課題解決に係る大学との協働」

- ・平成27年度に実施して以降何も実施されていない。このテーマについては1回限りというものだと思うが、何かしらテーマを変えて大学生の知見などを活かしながら作っていく場を継続的に実施していく必要があると思う。

○基本目標3のKPI「市内事業所数」「市内事業所従業者数」

- ・5年間に一度の経済センサスが基準ということになると、5年間評価されないことになってしまうと思う。

○基本目標3の3「創業塾受講生の市内創業事業者を増やす」

- ・創業塾の開催については、夜間やオンラインの実施などを検討いただきたい。学生参加も見込めれば、若者の定住にもつながると思う。